

## 1、飽浦無断開発について

岡山市南区飽浦において無断開発問題が起こっております。樹木の伐採を行うとした個人が、県の保安林を含む他人の土地の樹木まで勝手に切り、用水につながる沢まで埋立てるなど、土地の形状まで変える伐開状態になっています。用水そのものが壊された可能性まであります。現地は、ハザードマップによると、土砂災害危険個所の土石流危険渓流流域であり埋められた沢は土石流危険渓流になっています。しもての地域は土石流危険箇所の保全対象区域が広がっており、数軒の民家があります。4年前の台風の大雨では、この危険渓流流域内の斜面で土が崩れたと話を伺っています。現場の土は真砂土であり雨に弱いです。私も現場を見ましたが、雨の後だったこともあり、ゆるく盛られた土には簡単に足が埋まり、容易に崩れるところだと印象を持ちました。現在、埋められた沢の上流はせき止められて水が溜まり、土石流の危険性は強まっていると考えます。

無断開発は昨年10月に起こりました。突然、自分の土地に重機が入り、生まれ育った土地を勝手に切り開く。警察を呼んでも止まらない。許しがたいことだと思います。

樹木の伐採の届け出は平成23年に出されています。伐採の理由は駐車場、資材置き場にするというものです。しかし現場に通じる市道は山の中で細く、伐採や開発に使うのは実際には困難です。届出の代表者氏名は、金甲山の違法建設残土処分問題の法人の代表と同じ名前です。実際の実行者についても同一人物であると伺っています。金甲山違法建設残土問題は、他人の山を勝手に切り崩した上に多量の土砂を積み上げ産廃まで捨て、市も警告を出した大問題です。いまだ是正はされないままです。その後5年もたったら伐採の届け出が出て十分な警戒を払わないということでは困ります。無断で他人の土地を勝手に開発しても正せない、責任もとらせられずにやったもの勝ち。そんなことを許してしまえば、岡山市の中山間地は荒らし放題になってしまいます。

土石流の危険性が高まっている現状で、このまま崩れさせてしまってもいいのか。防ぐために行政はあらゆる可能性を追求すべきと考えます。万が一土石流が起こったとしても、無断開発の被害をうけた人に責任を負わせることは絶対にあってはならないと考えます。

以下、質問します。

質問ア、現地の土石流の危険性が高くなっていると考えますが、どう認識しているでしょうか。

イ、用水について、壊されていないか調査し復旧するべきと考えますがどうでしょうか。

ウ、保安林が被害を受けているのは明確だと考えますがいかがでしょうか。  
エ、伐採届出以降に、警戒すべき案件として対応すべきではなかったのでしょうか。  
オ、土石流で被害が出たとき、被害に対する責任の所在はどうなるのでしょうか。

## 2、路面電車駅乗り入れについて

路面電車の岡山駅乗り入れ計画について質問します。市長は来年度秋に最終計画案を示すことを目指して、路面電車を2階にあげてJR岡山駅に乗り入れる、平面のまま乗り入れる、地下にもぐらせる、岡山駅からデッキを現在の停留所につなげる4パターン12の案を示されました。最終案をこの中から来年度秋にまとめるとうかがいます。路面電車を乗りやすくすることは大事なことだと思いますが、乗り場を約100メートル近くするために最大46億円余のお金がかかる事業であり、効果を見すえたものである必要があると思います。誰がどれだけ負担するのかという問題も出てきます。この駅乗り入れ計画は、イオン進出より以前は吉備線LRT化より先の長期的課題であったと記憶しております。大きな政策変更ではないかと考えます。

駅乗り入れで回遊性が低下するところが生まれえます。地下街は地下乗り入れ案以外では歩く人は減り、岡山駅前商店街はデッキ案以外は行きにくくなると思います。総合的な影響を調査検討することが必要だと思います。

駅乗り入れ案は図面や費用は示されましたが、どれだけの乗客が増えるのかについての予測は出されていないと聞いています。昨年末、中心市街地の回遊行動についての調査を行われたということですが、駅に路面電車が乗り入れたら利用するかどうかなどあきらかにしてほしいと考えます。イオンモールから表町商店街についての交通の便については、ちょうど店の前に停留所があり、路面電車の路線を網羅するコースで「めぐりん」が走っています。市長は中心市街地の魅力づくりと回遊性の両方が大事と言われましたが、すでに中心市街地へのアクセスは確保されていると考えることができるので、二兎を追うより中心市街地活性化に力を注いだ方が効果があるのではと思います。そもそもイオンのお客は、そこで一日を過ごすこともできるため回遊するとは考えづらいです。代替手段があり、デメリットも考えられる中で、巨額の投資を行うだけの効果があるのか、検討をしていただきたいと思っています。

路面電車の利便性という点では、代表質問で述べましたが、人を募っておもてなしの精神で乗り場を案内するとか、必要なら荷物ももってあげるようにしたらいいと考えます。

公共交通の充実という点では、バス路線の廃止や減便で病院や買い物に行けない人たちにどう足を確保するかが生活に関わる切実な課題だと考えます。例えば灘崎や瀬戸の公共交通の計画をまとめることにもっとイニシアチブを発揮していただきたいです。

それでは質問します。

質問ア：今まで長期的課題であったものを優先課題とした理由は、それだけの緊急性があるということでしょうか。

イ：財政負担はどのようになるでしょうか。いつ、どのような基準で判断するのでしょうか。

ウ：イオンや商店街での調査をしたということですが、需要予測や経済効果はどの段階で検討されるのでしょうか。

エ：地下街や岡山駅前商店街の影響についてどう考えるのでしょうか。計画にはどのように反映させるのでしょうか。

オ：市街地の循環バスが存在していますが、現状では中心市街地への公共交通はまだ不足しているという認識でしょうか。

カ：乗り入れ計画具体化前の今の利便性向上として案内する人を募ることは考えられませんか。

キ：灘崎や瀬戸の生活交通の確保にむけたこの1年の進捗状況はどうなっているのでしょうか。

### 3、市営住宅について

古い市営住宅にはまだ浴槽がついておらず、入居時に買ってつける必要があります。退去する際には撤去しなくてはなりません、今時分撤去した浴槽を他につけるあてなどまずありません。入居者に手間と出費を強いることになっており、改善が必要だと考えます。風呂のない家が珍しくなかった頃の名残ではないでしょうか。セーフティネットという位置づけにふさわしく、古い住宅であっても現在の生活水準を反映し浴槽も整備するようにしてほしいと考えます。

入居の際には連帯保証人が必要です。だれでもいいわけではなく、課税世帯でないとダメとなっています。ある方は、市営住宅の抽選に当選することができましたが、いざ申し込みとなってから唯一の家族が年金生活に入って非課税世帯となったことが分かり、結局連帯保証人を確保できずに入居をあきらめたということでした。低廉な住宅を希望する方の家族は、同じように所得が高くない場合があり、連帯保証人のハードルは高いと考えます。連帯保証人の説明については、入居案内書にはNPOや法人でも可能なことが書いてありますが、市のHPには「連帯保証人は、独立した生計を営み、確実な保証能力を有することが必要です」としか書かれていません。入居申込書には連帯保証人の説明がありません。

市営住宅についての窓口は、現在はじめに指定管理の業者が担っています。連帯保証についての相談を受けても「探してください」としか言われないと伺います。「どうしても見つからなければ住宅課に相談してください」とも言われなさそうです。指定管理にすると実態に合わせた柔軟な対応ができなくなるのではと以前より指摘

していましたが、危惧は現実のものになってるのではと思います。

連帯保証人が確保できない人に対して、NPOの入居支援センターがありますが、せっぱつまってからお世話になろうとしても、時間が必要で難しかったり、申し込んでも入れなかった例をうかがっています。より利用しやすいものとするため、知恵をつくしてほしいと考えます。

質問ア：すべての市営住宅で浴槽を初めからつけた状態で整備できないでしょうか。

イ：連帯保証人の説明は不十分ではないでしょうか。連帯保証人の条件の緩和は行えないでしょうか。

ウ：入居希望者からの相談について、指定管理業者から住宅課へ適切につながっているのでしょうか、改善の必要はないでしょうか。

エ：NPO、あるいは他の法人を通じた入居の実績はどうなっているのでしょうか。

市営住宅の戸数ですが、昨年12月末時点での空き住戸は978戸と聞いています。市が持っている市営住宅全体の2割近くになります。うち、老朽化や建て替え予定で募集していない空き住戸は594戸にのぼります。北長瀬の操車場跡地を取得し、市営住宅移転が進められると伺いますが、市民の居住の権利を守る立場で整備計画をすすめてほしいと考えます。

質問オ：空き住戸が多く残っている現状をどう認識しているのでしょうか。必要な住宅ストックが不足しているということではないでしょうか。

カ：空き住戸解消の計画はどう立てるのでしょうか。

キ：みずほ住座の建て替えの際に、ただ移転するだけでなく、募集停止している空き住戸があることをふまえて戸数を確保することが考えられないでしょうか。